

三日野

開校70周年記念誌



品川区立第三日野小学校





教育目標

健康で豊かな心をもつ子供

よく考え自らやりぬく子供

きまりを守り協力する子供

開校七十周年記念誌「三日月」目次

学校長あいさつ	2
校歌	3
校舎全景	4
お祝いのことば	6
三日月讃歌	8
大崎・五反田の歴史	10
第三日月小学校七十年のあゆみ	12
歴代校長	28
地域に見られる史跡	30
児童数の移り変わり	32
三日月歴史さがし	33
第三日月の四季	34
第三日月の一日	36
日中教育交流	38
未来へ向かって——三日月の子供たち	40
現教職員	57
七十周年記念事業等の記録	58
参考文献・資料	59
編集後記	60

ふれ合いいっぱい

学び合う 三日野



—— 過去をふり返り

現在を見つめ

将来を展望して——

校訓

真面目なれ
自らつとめよ



正門脇にある校名・校章の由来の碑
平成3年度第70回卒業生による卒業制作



開校七十周年に感謝をこめて

学校長 大内 敏光

机上にひもといた『学校沿革誌』の第一ページには、墨痕も鮮やかにこう記されている。「本校沿革史は、昭和二十年五月二十三日空襲により校舎全焼し書類の一切を焼失したのでその後資料を蒐めここに集録したもので一部不明な点もあるが後は正確な資料が判明すれば加除訂正を行う予定である。」

このようなわけで、大正十一年の本校創立当時から戦災までの様子を直接記した「沿革誌」は失われたが、本校の残した輝かしい足跡が消えることはなかった。というのも、その後周年行事を重ねるたびに失われた部分が補填され、諸先輩のご努力により学校の名はいよいよ高まっていったからである。まさに、汗の跡を見る思いである。

そして「三日月」は今、恵まれた環境の中で温かい愛情に包まれながら学ぶ子供たちとともに栄えある開校七十周年を迎え、関係者一同等しく喜びを分かち合うに至った。このよき環境と校風を作りあげて来られた先人のご功績と、常に支援して下さる区当局、PTA、同窓会、地域町会等のご厚意に、深甚なる敬意と感謝を捧げる次第である。

さて、学校を作ったのが人なら、人を作るのもまた学校である。これまでを送り出した九三六二名の卒業生に続いて、これから有為なる人材を輩出していくのが学校に与えられた使命である。来るべき二十一世紀（八十周年）を展望して、「ふれ合いいっぱい、学び合う三日月」を合言葉に、新たな歩みを力強く踏み出して行きたい。

第三日野小学校校歌

明るく晴々と

♩-84

作詞 西条 八十

作曲 下総 皖一



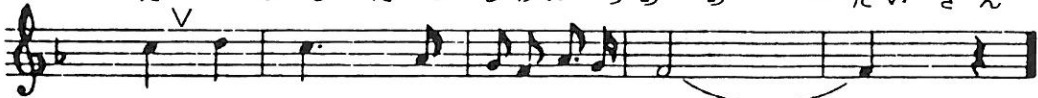
なさえ あさひに かがやく みどり ひのは われらの たのしい がっこう
つきのかつらのきぼうは てらす きよく ただしいりそうのみちを
そらのひのまる せかいが あおぐ おんか さかえる ほまれの にほん



みがく ところに きたえる からだ えがお あかるく のびゆく われら
やさし おんしのめぐみのひかり うけてげんきに のびゆく われら
そだて つくるは みらいのわれら も える きぼうに のびゆく われら



た の し た の し わ れ ら あ あ ー だ い さ ん
た の し た の し わ れ ら あ あ ー だ い さ ん
た の し た の し わ れ ら あ あ ー だ い さ ん



の し ょ う が く せ い わ れ ら ー
の し ょ う が く せ い わ れ ら ー
の し ょ う が く せ い わ れ ら ー

第三日野小学校校歌

作詞 西条八十
作曲 下総皖一

一、名さえ朝日に輝くみどり

日野はわれらの楽しい学校

みどく心にきたえるからだ

えがお明るくのびゆくわれら

楽し楽しわれら

ああ第三の小学生われら

二、月の桂のきしうは照らす

清く正しい理想の道子

やまー思師のめぐみの光

うけく元気ののびゆくわれら

楽し楽しわれら

ああ第三の小学生われら

三、空の日の丸世界が迎ぐ

文化栄えるほまれの日本

そだてつくるは未来のわれら

燃える希望にのびゆくわれら

楽し楽しわれら

ああ第三の小学生われら







開校七十周年を祝して

品川区長 高橋 久二

品川区立第三日野小学校が開校七十周年を迎えましたことに對し、心からお祝い申し上げます。

本校は、七十年の歴史の中で、教育環境の整備・充実、教育実践への意欲的な取り組みに象徴されるように、地域及びPTAの方々、教職員の方々の教育に対する情熱と努力があり、今日のすばらしい発展をみるに至っております。歴代の校長先生や教職員の方々、保護者をはじめ地域の方々の並々ならぬご努力に深く敬意を表し、感謝を申し上げます。

二十一世紀を目前に控え、社会の変化に主体的に対応できる児童の育成がさげばれております。本校は、自ら目標を持ち、意欲的に学ぶ児童の育成をめざして研究に取り組んでおります。国際化、情報化が急速に進む中、様々な情報に対して自分で考え、判断し、生涯にわたって学び続けながら自己を確立していくことは、大変重要なことです。今後、更に、この研究が推進されることを願っております。

区といたしましても、児童の健やかな成長を願いつつ、教育効果を高めるために、教育施設、教材・教具の整備、充実等、豊かな教育環境づくりに全力を尽くす所存です。

七十周年を一つの節目として、本校がこれまで培われた歴史と伝統を基に、更に地域との連携を深め、新たな歴史を刻みながら発展されますことを祈念して、お祝いのあいさついたします。

開校七十周年を祝して

品川区教育委員会教育長 相川 明

品川区立第三日野小学校の開校七十周年を心からお祝い申し上げます。

本校の七十年の歴史を振り返ってみますと、学校や保護者会、地域の方々が、学校の施設・設備の整備に向けて、熱心に取り組んできております。このことの背後には、学校関係者や地域の方々の本校の教育に寄せる大きな期待や理想があったのではないのでしょうか。

このような期待に応えるべく、本校では、日常の教育活動の充実をめざして、より実践的な研究活動に取り組んできております。そして、幾多の研究発表会を実施することによって、その成果を世に問い、高い評価を得てきております。

二十一世紀を担う人間の育成のために、学校教育の果たす役割が盛んに論議されておりますが、大切なことは、今、児童に何を育てておくべきか、育てるために何が必要か等、本質を見据えて考え、見通しをもつことです。

七十周年を機会に、本校がその歴史から学ぶことを整理し、今後の本校の教育の理想について、おおいに論議していただきたいと期待しております。

また、本校が、二十一世紀に向けて、健やかな児童の成長を達成するために、PTAや地域の方々との連携を図りながら、新たな歴史を築かれることを願って、お祝いのあいさついたします。

価値ある時を心に積み重ねて

P T A 会長 塚田成四郎

私達の子供達が第三日野小学校で過ごす六年間は、子供達の心の中で、どのように積み重なって行くのでしょうか。そして、九千人余りの卒業生達の心に、第三日野小学校で過ごした時間は、どのように刻み込まれて行ったのでしょうか。

六年間という時間そのものはただ過ぎ去って行きます。しかし、六年間に経験した事柄についての想いや感情は、子供達の心の中に積み重なって行きます。

P T A の目的は、学校と協力しながら、子供達の学習環境を整備して行くことであると考えます。子供達の学習環境とは、物的な面だけでなく、先生と子供との関係、先生と親との関係、親同士や子供同士の関係などの人間関係を含む環境のことです。学校施設は大幅に改善されて来ていますが、人間関係は毎年調整して行かなければならない性質のもので、そして、こうした意味での子供達の学習環境が整ったとき、第三日野小学校での六年間は、子供達の心の中に、価値ある時間として積み重なって行くものと考えます。

上大崎・五反田地域の子供達が初めて出会う場である第三日野小学校の学習環境がますます整備され、第三日野小学校で過ごす六年間が、価値ある時間として子供達の心に積み重なることを願ってやみません。第三日野小学校の創立七十周年を心よりお祝い申し上げます。

母校第三日野小学校に栄光あれ

同窓会会長 佐藤 謙次

昭和八年の三月、卒業式が終わってから、私は六ヶ年間の同級生だった椿忠雄君と、特別教室の地下の暗やみをのぞき込んでいました。二人は校庭で拾った小石に、それぞれ自分の名とその日の日付けを鉛筆で走り書きして持っていました。「いつか一緒にこれを取り出してみようね。」幼心にそう約束して、その教室の地下に小石を投げ入れました。――昭和二十年の上空襲で、その特別教室も本校舎も灰じんに帰し、今は当時の一對の低い表門を残すばかりです。――戦後、学友の椿君はスモン病の泰斗として医学界に名を馳せましたが、私も再び相見ることなく他界されました。……今は御冥福を祈るばかりです。

本校創立六十周年を過ぎて、前校長大野先生からお電話があり、プールの改設のため、校庭の滑り台を壊すことになったが、その上部を記念に残してはとのお言葉。区役所との交渉や保存への措置等、校長先生はじめ諸先生の御努力、P T A・同窓会の御協力の結果「ここに滑り台ありき」のプレートと共に、校庭の西隅にローマ皇帝の玉座さながらに滑り台は鎮座し続けています。六十年間にわたって、男の子・女の子が滑り降りた――心触れ、お尻触れた滑り台――それは幼い日の思い出の唯一のよすがです。――さてこそ今年には創立七十周年。母校に学んだ一万に近い同窓生各位の御健勝、校長先生はじめ教職員の方々、P T A の保護者の皆々様の御多幸を祈念しつつ、以上、お祝いの言葉とさせていただきます。――母校第三日野小学校に栄光あれ。

開校七十周年記念

―三日野讃歌―

笑顔がいっぱい

作詞 平野聖恵
作曲 村島丞治

みぎてに公園 みどりのトンネル

坂道 半分 くだったところで

ひだりて みてみて さわやか 三日野

桜咲く頃に はじめて遊んだ 校庭^{にわ}

プールが夏に 目をさます

赤とんぼ ヨーイどん

木枯し 北風 肩寄せて

ワイワイ 負けるな ホイ

笑顔がいっぱい 三日野

みぎてに公園 みどりのトンネル

坂道 半分 くだったところで

ひだりて みてみて さわやか 三日野



三日野讃歌応募者全氏名

五十音順

安達 岳男	安達 美穂	荒井 奈央	荒居 美紀
飯島 麻衣	石原美和子	岩崎 玲子	植田麻紀子
瓜生 貴俊	遠藤 恵	大藪 竜介	尾崎 青子
小田 潤子	小原 浩司	勝間田和人	加藤かほり
川崎 幹史	木村 恭子	高野 達成	児玉 邦彦
児玉 哲彦	小松 孝裕	塩崎 裕子	清水 千春
島田 愛子	白木健太郎	鈴木 充子	鈴木 裕也
関根 隆嗣	高田 敏央	高見かおり	田中 太祐
塚田耕太郎	寺井 祐輔	中野 剛	中山 望
野口 朋子	平野 聖恵	朴 宣美	正角 成泰
馬杉 毅彦	宮嶋 桃子	武川 愛	室 彩子
吉野 里枝	吉本 哲	渡辺 慎也	以上四十七名

平成四年七月十七日

この曲は、開校七十周年を記念する「三日野讃歌」として、児童たちより募集した歌詞から生まれたものです。

児童たちが、集会や遠足等で楽しく歌い親しめるようにしたいという願いがこめられています。

作詞者のひとこと・四季折々の様子を表すのに苦労しました。

作曲者のひとこと・日光林間の緑にかこまれた中で、メロディーが完成しました。

三日野讃歌

作詞 平野 聖恵

作曲 村島 丞治

～笑顔がいっぱい～

♩ = 130 1992.7.17

みぎてにこえん みどりのトンネル —

さかみちはんぶん くだったところで ひだりて みてみて —

さわやかさんひの — さくら

さくころに — はじめて あせんだ にわ

プールがなつに めるさます あびせんぼー ヨーイどん

こがらし きれがぜ がたよせて — ワーイ ワーイ

まけろなホイ えがおが いっぱいさん ひの

みぎてにこえん みどりのトンネル —

さかみちはんぶん くだったところで ひだりて みてみて —

さわやかさんひの —

大崎・五反田の歴史

一、大崎の地名の由来

縄文時代に、人々は目黒川をはさんだ東西の台地に住んでいた。五反田の平地は品川の海の入江で、台地は岬を形づくっていた。この沼沢の傍に千代ヶ崎（上大崎）霞ヶ崎（池田山）袖ヶ崎（島津山）など大きな岬、即ち大崎があつて、それが地名となつて残つたという。

また、古記録には「大崎の地名は秩父山より続き尾崎なる故地名とす。後に改めて大崎と書改めし。」（『南浦地名考』）とある。

奈良から平安時代にかけて各地に豪族が荘園を拡げるようになり大崎の地は日野の庄・また菅刈の庄とも言われた。

江戸時代になるとこの地は幕府の直轄地（天領）となり、代官が支配するところとなった。大崎の地名が記録に見えるのは正保年間（一六四四頃）からで、大崎村と記されている。元禄時代になってこれが上・下に分かれ、大崎の北側、即ち目黒川の上の方から上大崎村、下大崎村と名づけられた。

上大崎村は文政十一年（一八二八）の記録では戸数二十一、東西十五丁余、南北十二丁余にわたり、上大崎村の本村は目黒川沿い左岸、（現在の西五反田一・二丁目）にあり、その東北側の丘陵地帯、中丸辺から上大崎二・三丁目の部分を含んでいた。南方目黒川の辺は平地で水田が開け、西方は高低があつて、松平上総介、松平内匠頭、森佐渡守、柳生但馬守の下屋敷があつた。

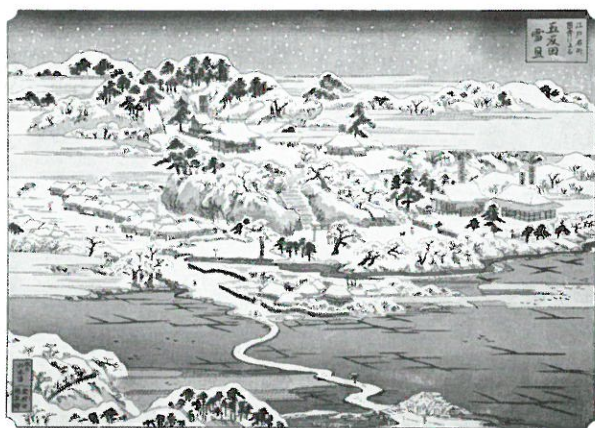
下大崎村は上大崎村に続いた目黒川に沿った水田の多い地帯で、文政十一年の記録では戸数三十三、東西、南北各五丁にわたっていた。霞ヶ崎、袖ヶ崎とよばれる丘の麓に沿って人家があり、丘に近い田圃は自然の湧き水を灌漑用に使っていた。

二、明治の頃の大崎

徳川時代から明治時代へ、日本は近代国家への歩みを踏み出したが明治末頃になって工業地に発展変貌するまでこの地は農村風景が続いた。

明治七年（一八七四）の記録によると上大崎村、戸数一三一、人口五一五、田八町二反、畑三七町六反、主な作物は米、大麦、大豆、小豆、黍、稗、粟、蕎麦、胡麻、番南瓜、茄子、大根、芋、胡瓜、冬菜、濁酒などであった。下大崎村は戸数六四、人口一九九、田十三町畑二十一町で作物の種類は概ね同様であった。

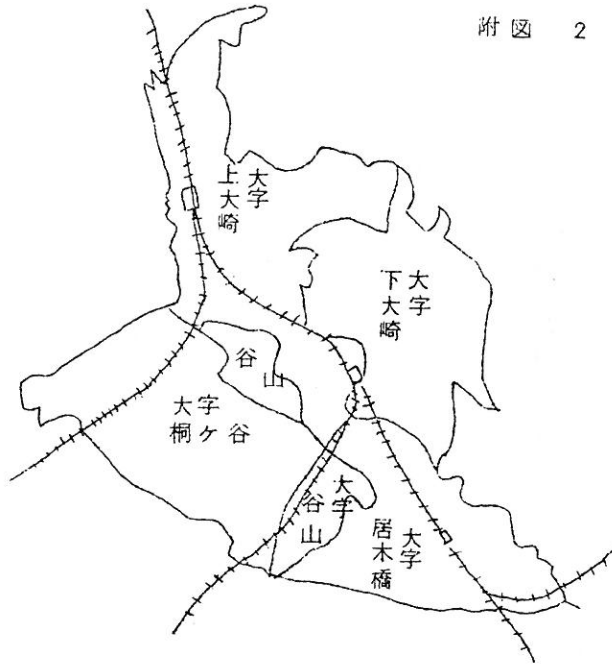
五反田地区は東西両側の丘からの湧水に恵まれていたが（清水窪、池の谷、篠の谷、座頭窪、道場谷、谷戸など）その他の地域は品川用



上の絵は江戸時代の五反田を描いた錦絵である。元日、雪景色の五反田で、画面中央に描かれているのは雉子神社。

以前に上大崎村の一部、下大崎村、谷山村、桐ヶ谷村、白金猿町といわれた地域が昭和四十二年（一九六七）東五反田・西五反田と呼ばれるようになった。元来、五反田という地名は五反田駅附近の下大崎村の小事の名であった。山口直博氏の著書『五反田今昔物語』（昭・52）による。）

附図 2



市町村制のころ
明治22年現在

(鉄道は参考を示す)

水(桐ヶ谷村、居木橋村、谷山村の一部)や三田用水(上大崎村、下大崎村、谷山村など)の水を引いて使っていた。

明治十一年(一八七八)郡制が敷かれ、上・下大崎村は荏原郡に編入された。明治二十二年(一八八九)町村制施行に伴い、上大崎村、下大崎村、谷山村、桐ヶ谷村、居木橋村の五ヶ村は合併して大崎村となった。

大崎村は明治四十一年(一九〇八)町制を施行し、大崎町となった。

三、村から街へ

大正初めの大崎町は、大崎駅近くにあった明電舎、居木橋近くの目黒川沿いの二、三の工場、また桐ヶ谷の中原街道沿いにあった星製薬の工場を除いては、目黒川の谷沿いに広がる水田地帯と旧大名屋敷のある北側の台地、西側の平塚村へと広がる畑地帯からなる静かな近郊農村の一つに過ぎなかった。

しかし、大正のはじめ頃になると、目黒川の川沿いは急速に大小多数の工場が建つようになった。その工場数は明治四十四年(一九一一)のわずか八工場から大正十年(一九二一)には実に一三一の工場数となり、昭和五年(一九三〇)には一七二に達している。

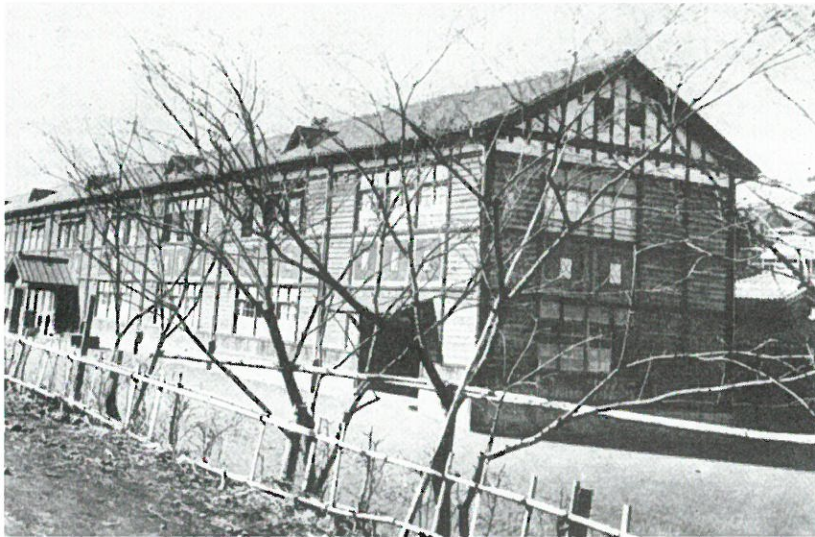
これら工場の増加に伴って付近には住宅や商店の増加も急ピッチで進み、田や畑が次第に姿を消していった。明治三十七年(一九〇四)に三七一戸(専業二六八、兼業一〇三)あった農家は、大正十年(一九二一)には四四戸(専業二八、兼業一六)に減少している。また、上大崎の山手の台地にあった旧藩主の大邸宅も昭和五年(一九三〇)の金融恐慌のおりを受けて分譲地として開放されることとなり池田山のような住宅地が形成された。このようにして、大崎町が昭和七年品川区に編入される頃には全町にわたって市街化がすすんでいた。

市街化の進展に伴い児童数の増加も著しく、大正元年(一九一二)から大正十年までの十年間に三倍にも達した。当時第一日野、第二日野小の両校では二部授業、中には三部授業も行われていた。新しい小学校の増設は急務となった。大正七年芳水小学校、大正十一年第三日野小学校新設の背景にはこのような事情があった。

第三日野小学校七十年のあゆみ

学校創立の頃

創立当時の校舎全景



第一次世界大戦後、大崎町における工場の増加は著しく、児童数も増加し、第一、第二日野小に収容しきれなくなったので、大正九年（一九二〇）上大崎五一二の地に一七三三坪を購入（当時品川の鳥山氏の田圃であった現在の土地を荏原郡会議員の土屋氏が買い取って埋めたて本校敷地とした。大正十一年四月に第三日野小学校が開校した。約八〇〇名の児童が第二日野小学校から転校して授業を開始した。

敷地 一七三三坪、買収価格八万六千六百五十円（内、四万五千七百七十五円は所有者土屋氏その他より寄附）

校舎 木造瓦ぶき二階建、教室数十九、職員室、器械標本室、宿直室、衛生室、物置二

学級数

大正十一年度、学級数十七、男子四

七六、女子四七〇、計九四六名

職員 二二名

あゆみ 一

大正九年（一九二〇）

二月 時の町長立石知満氏は第三日野小学校の新設を計画し、学務委員会・町会の議を経て、現在の位置を選定

大正十年（一九二一）

一月 位置指定の申請

六月 荏原郡大崎町上大崎一五一二に東京府荏原郡大崎町立第三日野尋常小学校校舎の設立の認可。七月三十日

起工・翌十一年三月竣工。

大正十一年（一九二二）

三月 第二日野尋常小学校訓導吉沢光義氏本校訓導兼校長に就任

四月 開校

五月 二十一日に開校式を行い、この日を開校記念日と決定

開校の頃の思い出

新免（旧姓・今井）千代子

（大正十二年三月、第一回卒業）

大正十一年四月に、新しく三日野が開校し、五年生まで通っていた池田山の下にあった二日野から、八〇〇人程の子供たちと一緒に移ることになりました。

三日野へ移る子と二日野へ残る子とが、クラスの中で別れることになり、淋しい思いをしたのを覚えています。

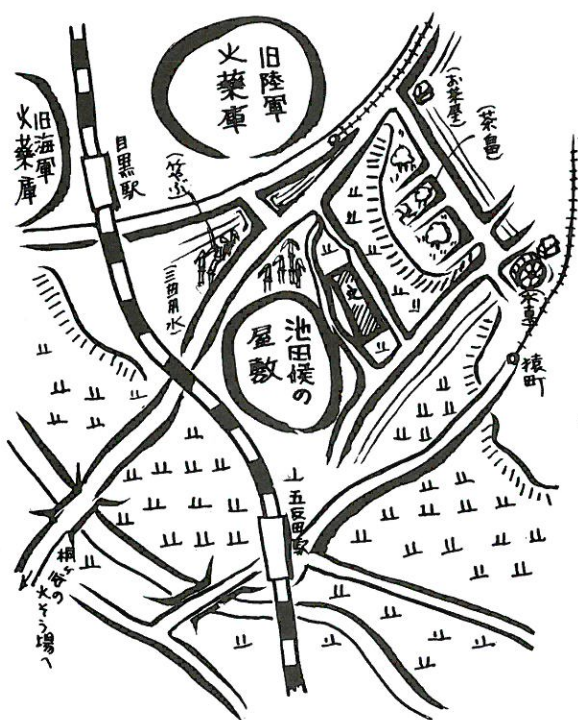
開校した三日野はまだ完全に工事が終わっていないく、神戸坂の崖に石工さんが石垣を造るのを、教室から毎日見ておりました。校庭



創立当時の職員

当時の先生方の写真を見ると、男の先生はフロックコート、女の先生は和服に袴姿で、常にえりを正して教壇に立たれていた。
荏原郡の学校の中では初めてピアノを購入し、音楽教育に力を入れた。
学校設立の認可がおりてから開校までに一年の準備期間があったため、当時の先生方が歩きまわって教材教具をそろえたので、開校早々充実した授業をすることができた。図書の多いことも郡内一で、参観者の訪れることが多かった。

創立当時の学校附近



先生方は新しい学校づくりの意欲にもえ、指導の打ち合わせや研究会のため帰りが夜の十時近くなることもしばしばあり、ふくろうや狐の鳴き声に送られるのがとても恐しかったという。当時の学校附近は池田侯の下屋敷といわれ雑木林に囲まれていた。今の通信病院の辺りは昼でも気味の悪いような深い林、また中丸から池田山にかけても雑木林が続く、池田山では狐が盛んに鳴いていたという。下大崎には田圃が広がり滝や水車もあり、その田圃のはずれに学校ができたが、校庭は埋め立て地のため雨が降るとひどいぬかるみとなり、風が吹けば、そのほこりはひどいものだったという。

の裏庭に小さな菜園があり、種を蒔いて野菜や花を作っていました。
当時、学校へ行くときは、男子は木綿のかすりの着物に縹柄の袴、女子は着物にセルの袴をつけていました。お転婆だった私は「肋木」から飛び降りたりして、よく袴の裾を綻ばせて家に帰り、母から「そんなだったら男の子みたいに木綿の袴をはかせるからね」と叱られて、困ったことを懐かしく思い出します。
私は大正十二年に卒業した、第一回の卒業生ですが、あの頃から既に七十年の歳月が流れ、今年、母校の三日野が開校七十年を迎えたことを聞きして、とても感慨深いものがございます。

大正から昭和へ

開校後、保護者会の努力により次々と施設が作られた。大正十四年校庭に小プールが、大正十五年には崖下に大きいプールが設置された。荏原郡に初めてできた公式プールであった。夏休みが終わりに近づくとき全校競泳大会が開かれた。三等賞まではメダルがもらえ



授業風景

たので子供たちは皆一生懸命泳いだという。このプールで荏原郡の記録会が開かれるようになり多くの見物人が集まるので後にスタンドが作られるようになった。

校庭の片すみにはコンクリート造りの立派なすべり台ができていた。これは現在の新プール工事のため取りこわされるまで半世紀にわたって子供たちに親しまれてきた。



朝礼風景

あゆみ二

大正十二年（一九二三）

七月 保護者会を創立

大正十四年（一九二五）

七月 保護者会で校庭に小プール（三間×五間）を設置、本校に寄付。

大正十五年（一九二六）

七月 保護者会で荏原郡最初の公式プールを設置（22m×55m）

昭和二年（一九二七）

三月 市原文治氏、第二代校長として就任

昭和四年（一九二九）

十一月 時の小橋文部大臣来校、児童に訓話

回想

加藤 金一

（昭和七年卒業）

私が下目黒小学校から第三日野へ転校してきたのは、大正十二年の春のことでした。

学校付近の様子は、坂を越した向かい側の今の池田山公園のところは「神戸さん」という邸宅でした。そして門を出て真っすぐ行き、左に曲がると、「小出や」という米屋と炭屋と、あと二・三軒の家があり、大きな長い水樋があって、清水がこんこんと湧いておりました。そこを真っすぐ行くと、今の郵政官舎の所は一面の笹やぶでした。さらに真っすぐ行くと、突き当たりの崖の上の家の裏手に、三田用水が築土手という枠をつくり流れてい

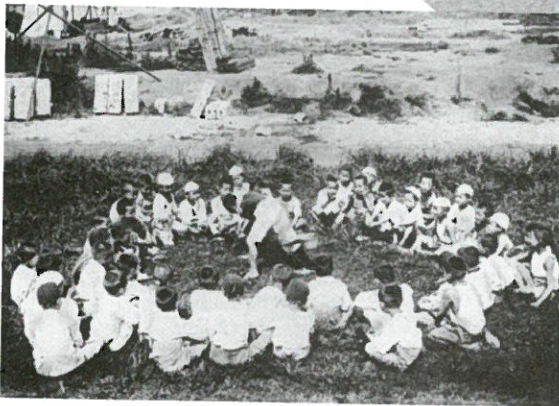
創立当時から昭和の初めにかけてはドッジボールが非常に盛んであった。大正末期明治神宮外苑における全国ドッジボール大会では見事優勝の栄冠を得た。昭和の初めには荏原郡の大会で優勝したり全国大会で準決勝、準々決勝に勝ち残ったりする好成績だった。



小橋文部大臣来校（昭和4）



ドッジボール大会 全国優勝（大正15）



すもうをとっている一年生（大正12）— 現在の正門前の原っぱ —

校地拡張

昭和四年五月に、学校の東側の田圃（大崎町大字上大崎上ノ谷五〇九番）を六三七〇円で買収し、一九五坪の敷地が増えることとなった。この事業にあたっては保護者会の尽力によるところが大きかった。

ました。その昔には小出やさんは、そのあたりで、水車によって精米をしていたそうです。大正五年の七月、荏原郡ではじめてのプールができてうれしかったものです。そのプールで泳ぐ頃になると、校庭一杯によいずを張ってくれました。一間幅ぐらいに柱を立てますので、その柱を利用して陣取りゲームをしたものです。

その頃の祝日は、二階の三教室を抜いて式をしました。教育勅語を校長先生が読み終わると、皆が鼻をすずてよくしかられました。二階といえば、二階の壁には「絵はがき」がびっしりと貼ってありました。外国の絵はがきが多くて「きつと外国に行ったことのあるお父さんたちが買ってきて寄付してくれたのだらう」と思い、うれしく見たものです。次は「青い目の人形」のことです。

それは渋沢栄一さんの日本国際児童親善会によって始められました。

「米国から寄贈される人形は全国に配布し、当該学校の校長により優良子女に与うべきものである」というもので、一九二七年三月にサンフランシスコを出港しました。人形は背丈一五センチで、腹部を押すと「ママア」となくものでした。

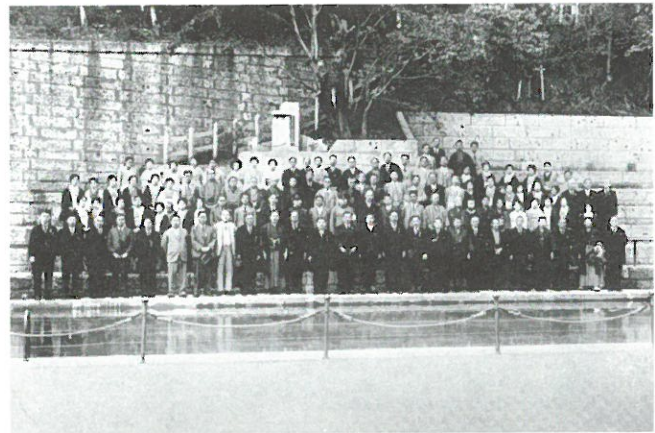
丁度、大正天皇が亡くなられたので、各学校へは大部遅れて届きました。「人形を迎える歌」が出来ましたが、一般には「青い目をした人形は、アメリカ生まれのセルロイド」（野口雨情作詞）の方が受け入れられました。それよりも校長先生の慣れない手つきで人形をあつかうのが、大変めずらしく感じられたものです。

昭和十年代

この時期は本校の成長期ともいえる。次々に施設が拡張充実されていった。昭和七年には特別教室が増築され、昭和十年にはプールの拡張とプール脇スタンドの設置、校庭の舗装工事が行われ、昭和十六年には講堂が落成した。



昭和7年 校舎全景



プール落成記念（昭和10年）

大正末頃にはプールは二つあったが校舎増築のため小さいプールがとりこわれ、大きい方のプールは拡張されて、その後長く使われた。スタンドがあったので区の水泳大会はいつも本校で開かれた。子供たちの活躍も目ざましく神宮大会で優勝もした。

少年団の訓練も早くから始められ、最初は陸の少年団であったがやがて海洋少年団に変わった。熱心な指導者が揃っていて訓練が盛んであった。土曜日曜はボート訓練に出かけ夏休みには野宮訓練を行った。

本校の敷地はもと窪地の田であったため土ぼこりや校庭のぬかるみに悩まされていたが舗装工事によってその悩みから解放された。

舗装前は、風が吹けば土ぼこりはもちろん小石までとび、少しの雨で水たまりができ、豪雨でもあればたちまち泥田のごとくなり、長靴はもぐり泥にとられてまともに歩けたものではなかった。

（林 観潤氏 昭和十六卒）

昭和七年、大崎町の東京市編入に伴い東京市第三日野尋常小学校と校名が変更された。

あゆみ三

昭和七年（一九三三）

八月 特別教室（理科・音楽・工作・裁縫・作法）の増築

十月 東京市に編入・校名を東京市第三日野尋常小学校と変更

昭和十年（一九三五）

四月 皇太子ご誕生記念事業として、プール拡張（25m×7m）、プール脇スタンド及び校庭舗装完成

昭和十二年（一九三七）

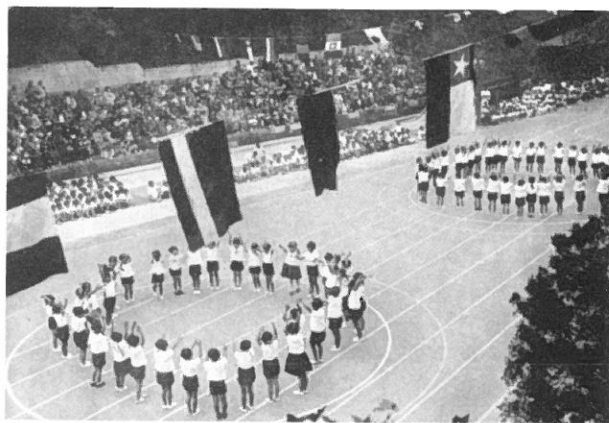
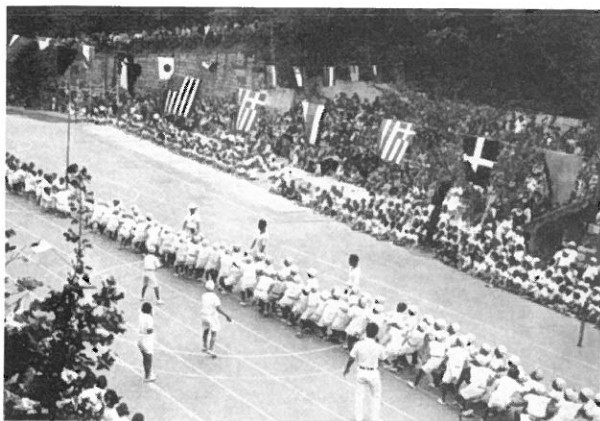
三月 第三代校長 橋本信栄氏就任

昭和十六年（一九四一）

三月 紀元二千六百年記念事業の講堂落成
四月 東京市第三日野国民学校と校名変更

当時の学校行事（「文集」17・18号より）

7・20	5・27	5・21	4・1	五月の	校外教授	二年	三年	四年	五年	高尾山	開校記念式	学芸会	第一期終業式	一学期	始業式・入学式	一年	洗足池	上野	大宮	羽田	高尾山
------	------	------	-----	-----	------	----	----	----	----	-----	-------	-----	--------	-----	---------	----	-----	----	----	----	-----



秋季大運動会

3・25	2・7	1・8	1・1	1・1	三学期	12・24	11・23	10・15	10・1	9・1	二学期	第二学期始業式	自治記念日、午前八時より儀式	第十二回秋季大運動会	六年、伊勢・桃山参拝旅行	第二学期終業式	新年祝賀式	第三学期始業式	新一年の予備身体検査	卒業証書授与式
------	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-------	-------	------	-----	-----	---------	----------------	------------	--------------	---------	-------	---------	------------	---------

回想

大室 利子
（昭和十二年卒業）

「今日は学校はお休みですよ」第三のおじさんが雪の降り積もった朝に声をかけてきた。「表の通りに兵隊さんがいるよ」友達がかうんでいた。昭和十一年二・二六事件。小学校の私には忘れ得ぬ雪の日の想い出です。

その頃は、まだ学校へ通う道には桑の実が赤く色づき、裏門の壁の所には青い可愛い蛙が沢山いて、それが見たくてわざわざ裏門から入ったりしたものです。私が入学した時は特別教室が出来て楽しい想い出が一杯でした。裏門のそばには市原校長先生のお宅がありました。昭和十年頃、プール脇に石のスタンドが出来ました。石のすべり台の囲みも子供達の歓声も傍らの桜の木も今と変わりがなく、五月五日は小運動会。そして橋本校長先生に変わり、秋の大運動会には六年生の女子は全員で君が代進行曲を踊りました。十二年には日中戦争が始まり、少しずつ世の中が変わり始めました。十五年には七名だったと思いましたが、卒業生の合同慰霊祭が学校であり、子供心にも戦争の恐ろしさがわかり始めました。卒業後、正門の桜の木の下で召集を受けた先輩を囲んで数名で別れの会をしたことは生涯の想い出です。

卒業した小学校が石のすべり台、桜の木を守って下さり、可愛い子供たちの声が元気にひびいて、豊かな心にさせていただいていることが、私の幸せです。

戦争と疎開生活

日中戦争が激しくなるにつれ、その影響は教育にも及んできた。昭和十六年（一九四一）小学校は国民学校と改称された。教育内容は、国民科（修身・国史・地理）、理科（算数・理科）、体錬科（武道・体操）、芸能科（音楽・習字・図画工作）の四教科にまとめられ、各教科の中に科目を置いた。

子供たちの学校生活にも戦争の色が濃くなってくる。ある卒業生は、次のように当時の学校生活を回想している。

昭和十六年に講堂ができ、剣道・なぎなたが盛んになってきた。海洋少年団も結成された。

昭和十七年ころから音楽準備室が慰霊室となり、卒業生の戦死された方の写真が飾られた。朝登校して一番にお参りをするが、だんだんと写真が増えていくのがとても悲しかった。

昭和十八年ころから集団登校になり、地域ごとに集まって二列に並んで建武神社（今の微生物研究所）で明治天皇の御製を朗詠してから登校することになった。月に一度の日の丸弁当、ぜいたくは敵だを合言葉に教科書も軍国調となる。遊びも兵隊ごっこばかり、棒きれを持った

り、ぼろぶとんでざんごうを作ったりした。（小林礼子氏 50周年号 P7 昭和29年卒）

空襲が日本本土に及ぶようになった昭和十九年六月には、東京の国民学校初等科児童の疎開を促進する要綱が閣議で決定された。

児童の疎開は原則として縁故疎開とされたが、地方に縁故のない三年から六年までの児童は学校ごとに集団疎開させる方針が示された。

第三日野小学校では、昭和十九年八月十七日に男子百二十四名が西多摩郡三田村に、翌日、女子百十八名が西多摩郡吉野村に集団疎開した。（残留一・二年児童及び虚弱児約三百余名。）

食糧難に悩まされ、先生や父母たちは食料集めに奔走した。また病人が出ると一里余りの山道を背負って運ぶなど大変な生活であった。



地蔵院学寮前で

あゆみ四

昭和十九年（一九四四）

四月 食料事情のため、学校給食実施
八月 西多摩郡疎開、冬の寒さがきびしいため、二俣尾へ再疎開。

昭和二十年（一九四五）

五月 二十四日、空襲により全校舎焼失
（いろいろな体験記を読むと、二十三日・二十四・二十五日と焼失日がちがい、定かではないが、区史の記述を採用した。）

八月 疎開を解き、芳水小の一部を借用し授業開始。

昭和二十一年（一九四六）

三月 疎開学寮閉鎖
四月 芳水小で正式に授業再開
（八学級三百三十一名）

集団疎開

新倉 勇

（昭和二十年卒業）

私達が六年生の夏のことでした。東京の児童達は戦火を避けるために地方に疎開することになり、第三日野は二年生以上のほとんどが奥多摩地区へ移りました。女子は軍畑、沢井の二か所、男子は御嶽山の中腹にと分散投宿しました。一時代前の寺小屋よろしく座敷

校舍燒失

昭和20年
5月24日

この時のようすを、上大崎一(四九七)のアパートに住んでいた北村世記氏(会社員二九歳)の体験記から抜粋する。(品川区史P.756)

(前略—五月二十四日の晩)

その直後、低く爆音がと思う間もなく、ザアーツ、ザーツと雷雨のようになにか降ってきた。つづいて焼夷弾の雨、パケツリレーの消火作業の暇なく、焼夷弾の突先に火がメラメラとしながら、つぎからつぎと家々の屋根の上に、軒下に、表も裏も、道路も集中的にバラバラと落ちて来てどうすることもできない。

電柱は火柱を立て、電線はシュウシュウ音を立てて左右に火花をちらし、火の手はますますはげしくなり、第三日野国民学校は天をつく勢いでもえさかり、道下にある逓信省電気試験所の木造建て倉庫は一気に炎を吹きあげており、熱くて熱くてどうしたらよいのかわからない。

(後略)

第三日 地藏院学寮	第三日 公会堂学寮	第三日 野畑中学寮	第三日 公会堂学寮	第三日 野畑中学寮	第三日 野畑中学寮	御嶽 第三日 学寮	学寮 名
吉野村畑中	吉野村畑中	吉野村畑中	吉野村畑中	吉野村畑中	吉野村畑中	西多摩郡 三田村 御嶽	寮舎所在地
同	同	同	青梅250	青梅250	青梅250	澤井23	電話
同	青梅線	青梅線	二青梅尾線	二青梅尾線	二青梅尾線	御嶽線	最寄駅
計女	計女	計女	計女	計女	計女	計女	性別
13	13	13	13	13	13	32	3
20	20	20	20	20	20	24	4
22	22	22	22	22	22	34	5
50	50	50	50	50	50	34	6
50	50	50	50	50	50	124	合計
48	27	32	157	157	157	157	使用人数
計女	計女	計女	計女	計女	計女	計女	教員数
1	1	1	2	2	2	3	3
大沢澄江	福田桂子	川村鈴江	矢澤倉吉	矢澤倉吉	矢澤倉吉	矢澤倉吉	学寮長名
2	2	1	5	5	5	5	寮母数



品川区西大崎交差点付近（昭和20年5月24日）

に机を並べての授業を中心に、朝は山に入
ての薪拾い、昼には食糧品の運搬やら漬物用
の大根干し、そして夕刻には風呂炊きといっ
たように、都会の小学生にとっては貴重な体
験をしながら平穩な日々を過ごしていました
ところが翌年の三月には、私達六年生は卒
業のために、近々に空襲必至と予想される東
京に戻らねばならぬ事となり、そして運命の
いたざらというべきか、帰京後の五月には大
空襲に身を晒す結果となりました。何のため
の疎開だったのか。でも、それもこれが天が
与えてくれた私達への試験であり、戦時下で
かなえられなかった修学旅行の代わりであっ
たのかもしれない。

たまにテレビなどで学童疎開が取り上げられますが、未経験の人が見れば何かしら悲劇的なニュアンスだけが感じられるかもしれません。しかし当人達にとっては、かなりの辛苦はあったにせよ、楽しく懐かしい思い出としてだけ各人の胸に深く刻み込まれているものと信じております。

昭和二十年代

焼跡から

立ち上がって

昭和二十年（一九四五）八月十五日、長かった戦争が終わり、焼野原の学校に児童約八十名が戻ってきた。校庭の一部には焼跡もそのままに、プールには焼夷弾が突きささったまま蛙どもに占領され、教室がないので、昭和二十一年、芳水小の一部を借りて授業が始められた。

子供たちは食糧難で青い顔をし、虱やのみに悩まされ、学用品もなく、雨の日には傘なしでびしょぬれのまま、遠い道を通うこともあったという。

昭和二十二年三月、学校教育法が公布され四月一日より新しい学制の下で、東京都品川区立第三日野小学校と改められた。

昭和二十二年三月に急造のバラック校舎であつたが校舎が落成し、ひとまず自分の学校で授業が行えるようになった。教室が少ないので二部授業を余儀なくされた。それは、昭和二十七年まで続く。

新しい校舎が竣工し、プールも補修され、校庭の舗装も完成し、校舎や設備も整った昭和二十七年五月二十一日に開校三十周年記念式が行われた。この時に合わせて、校歌が制定された。

サンフランシスコ講和条約が前年に結ばれ、日本が連合軍の占領から解かれ、国際舞台に登場することになったのもこの年であつた。

きたえよ..!!

運動場は舗装されておらず、ムシロ代用のマットを使つてのスタンツ



昭和 27 年の校舎全景

あゆみ五

- 昭和二十一年（一九四六）
 - 三月 疎開学寮閉鎖
 - 四月 芳水小を借りて、正式に授業再開（八学級、三百三十一名）
- 昭和二十二年（一九四七）
 - 一月 学校給食開始
 - 三月 校舎一階建（六教室・職員室・給食室）落成
 - 四月 学制改革により、東京都品川区立第三日野小学校と校名を変更
- 昭和二十三年（一九四八）
 - 十二月 PTA創立
- 昭和二十四・二十五 各四教室増築
- 昭和二十六年（一九五一）
 - 十月 学校警備員三名配置
- 昭和二十七年（一九五三）
 - 四月 衛生室・応接室・用務員室増築（児童九百十六名・職員二十一名）
 - 二月 授業解消
 - 五月 開校三十周年記念式典挙行
 - 校歌制定
 - 十月 第四代校長 中野藤太氏就任
- 昭和二十九年（一九五四）
 - 四月 PTA予算四十万円で図書館落成
 - 七月 校舎改築（六教室・校長室・職員室・給食室・用務員室）落成
 - 九月 PTA予算により、給食物資倉庫（三坪）完成

給食のあゆみ



給食風景（昭和27年頃）

学校給食がはじめられたのは、食糧難の戦中、昭和十九年四月、六大都市の学校からだった。朝ごはんも食べられず、弁当も持てこれない子供たちの栄養不足を補うためだったが、玄米ごはんのみの給食だったようである。

この後学童疎開がはじまり、終戦前後の混乱状態の中で学校給食は途切れたものの、戦後学校が再開されるに当たって再び学校給食の必要が痛感された。

第三日野小学校でも、昭和二十二年一月から給食が再開された。

米軍の放出物資（キャンディやチョコレート等）や脱脂粉乳のミルクなどによって給食

の回数は増えたが、配給制度の中で実施する給食は大変だったようである。

昭22・1・21「朝日新聞」トピック

都下いっせいに二十日の月曜日から学校給食がはじまった——これは麹町永田国民学校のおひる時、マカロニとカンヅメのサケをミルクで煮こんだのをオワンいっぱい、お弁当をひらいて「いただきます」という声もあかい、近くの専門の栄養士がくるそうだ、いま学校に入っているのはララからのミルク、ジャム、マカロニ、シチューのもとなどそれに都からのカンヅメ類とではその日に心配するいくらかの野菜、給食は週二三日、一食あたりざっと一円の勘定が父兄持ちである——。

新里真弓さん 昭28年三日野小卒

今でも忘れられないのは給食でした。コッペパンにおかずが少々。それに焦げたような味のするミルク。

ミルクは飲まずに捨てる子も多く、又食かんに残っていても誰もかわりをしなかったのですから、今思えば何とも味気なかった給食のように思いますが、そんな給食でもやはり楽しく待ちどおしいものでした。（五十周年誌より）

校歌のできるまで

朝倉通彦

（昭和二十九年卒業）

戦後、戦禍の中から復興しつつあった三日野には、当時、校歌がまだありませんでした。昭和二十七年の開校三十周年のときに、当代一流の作詞家・西条八十、作曲家・下総皖一による校歌が初めて作られることになりました。「鞠と殿様」「歌を忘れたカナリヤ」「肩たたき」などの童謡で世に広く知られた作曲家・西条八十氏は、当時、三日野の保護者であった仏文学者の成田重郎氏と早稲田大学の学友であり、また、フランス留学中の親しい知己であったところから、お願いして作詞を引き受けてもらいました。

作曲は、当時のPTA副会長であった清岸寺住職の吉田眞浄氏のはからいにより、吉田氏と同じ町内（上大崎一丁目）に住む、東京芸術大学教授の下総皖一先生にお願いして作曲されたものです。下総先生は、童謡「笹の葉サラサラ」などの作曲で知られ、文部省の音楽教科書の中には、先生の作品が無記名で多く採用されていました。

以来、四十年、校歌は三日野の子供たちに唄い継がれ、これからも唄い継がれていくことでしょう。

昭和三十年代

戦後の焼跡の中から困難な再出発をした第三日野も、昭和二十年代の後半には施設が一応整い、さらに充実した教育活動を展開するようになった。当時音楽の担任であった渡辺陸雄先生の指導の下で合唱団が作られ、NHK全国合唱コンクールをはじめ多くのコンクールに優勝し、第三日野の名前が全国に知れ渡った。また、学校施設の充実という面でも、昭和三十五年到校舎の一部が鉄筋に改築されたのを手始めに順次鉄筋校舎に建てかえられていくことになった。昭和三十七年体育館落成の祝いに合わせて開校四十周年式典が挙行された。このような学校の歩みの背景には昭和三十年代から始まった日本経済の高度成長がある。昭和三十九年の東京オリンピックの開催はそのシンボルとも言えることができる。各家庭にテレビが急速に普及し、子供たちの生活にも変化が見られるようになってきた。



昭和三十七年校舎全景

あゆみ六

- 昭和三十年（一九五五）
- 一月 都研究指定校研究発表（生活指導）
 - 十月 第五代校長 則内一郎氏就任
- 昭和三十一年（一九五六）
- 四月 PTA予算により、放送室新設・給食室設備完成
- 十一月 毎日音楽コンクール一位入賞
- 昭和三十二年（一九五七）
- 三月 日本放送音楽コンクール一位入賞
- 昭和三十三年（一九五八）
- 二月 改築四教室・増築二教室完成
 - 三月 社会科研究発表会
 - 四月 第六代校長 赤池徳平氏就任
- 昭和三十四年（一九五九）
- 三月 日本放送学校音楽コンクール一位入賞
 - 賞 文部大臣賞
 - 七月 鉄筋校舎（六教室・給食室）落成
 - 十一月 NHK全国唱歌ラジオコンクール全国優勝
- 昭和三十七年（一九六二）
- 三月 屋内体育館落成
- 五月 開校四十周年記念式典挙行
- 昭和三十八年（一九六三）
- 三月 日本放送合唱コンクール優勝
- 四月 第七代校長 増田喜恵蔵氏就任
- 昭和三十九年（一九六四）
- 三月 通学帽制定・第二期改築工事落成
 - 八月 NHK全国合唱コンクール二位入賞

コーラスの思い出

荒居（旧姓金田）みな子

（昭和三十五年卒業）

私が第三日野に通っていたのは、昭和三十年代。当時、学校はコーラスで有名でした。学校音楽コンクールでは、いつも東京都代表になり、数々の実績を残しました。そして昭和三十五年、三十六年には全国優勝を果たし私は子供心にも、とても誇らしく思ったものです。

私は合唱部には入っておりませんでした。コンクールには出場した記憶があります。それは当時、NHKの学校音楽コンクールは合唱団しか出られませんでしたが、ニッポン放送のコンクールには、六年生のクラス単位で



岩井臨海学園

出場できたからです。合唱団ばかりでなく、クラス単位でも優勝してしまうほど素晴らしい学校でした。

その時の指導者は音楽の渡辺陸雄先生。長髪のオールバックの髪を手でかきあげる姿は私にはベートーベンのように見えました。とても精力的で、指導は厳しく、時には優しく優勝したときにはとてもこわい顔で近寄り、たく、だめだった時はとても優しい顔に……。今でも鮮明に覚えています。

あの頃、学校には体育館がなく、今の体育館の所は畑で、へちまなどが植えてありました。目を閉じると当時の様子が目に浮かびます。



NHK全国唱歌 ラジオコンクール全国優勝

私は今でも三日野を誇りに思っています。私が通った六年間、音楽・諸先生・友達を通して、思い出いっぱいの三日野でした。

校庭の思い出

赤池 徳平

（第六代校長）

① 大雨のたびに校庭は濁流と化し、近隣にご迷惑をかけたが、どうしようもなかった。
② 木造校舎の一部が初めて鉄筋に改築されることになったが、裏の道路との関係で、校庭寄りに出る羽目になり、校庭は益々狭くなった。

③ 教員採用で埼玉の青年と校長室で面接した時の青年の質問。「この学校の校庭はどこですか」通路にしては広いが、校庭とは思わなかったという。

④ 日野中の運動会に学区内の六年生が招待されて走った。出番が近づいたとき、選手の一人在「コーナーはどう走りたいのですか」と私にきいた。ふだん直線コースしか走っていない悩みだ。コーナーで大回りして抜かれてしまい、かわいそうだった。

⑤ もともと校地は左右が高台の谷間で、葎が茂り、ゴミ捨て場だったとは古老の話。現に地下水の水脈があるのか、ブルの底から水がにじみ出ている。学校近くの地下室造成工事の現場で、黄変した葎の茎がたくさん出土したのを見たとき、古老の話を思い出した。
⑥ 三十年後、立派な第二運動場誕生の喜びを、三日野旧職員のひとりとして味わえるとは夢想もしなかった。

昭和四十～五十年代

60周年まで

昭和三十年代から始められた校舎鉄筋化の工事は、昭和四十七年（一九七二）には、東側校舎（理科室・図工室・音楽室）が、昭和四十九年には西側校舎（家庭科室・図書室）が落成して、一応の区切りがつけられた。

昭和四十七年五月に、開校五十周年を祝い、広報「三日野」五十周年記念号を発行した。旧職員・卒業生多数の回想が寄せられた。

昭和四十九年から五十七年までの八年間、都立立川養護学校品川分校（なかよし学級）が本校内に置かれ、運動会などの行事等を通して交流が行われた。

昭和五十二年（一九七七）には、昭和初期からずっと使用されてきた崖下のプールがとりこわされ、代わって組み立て式プールが使われることになった。この後、新プールが完成するまでの約十年間、毎年六月になると組み立て設置され、九月にはとりこわされ、校舎裏の倉庫に片付けられるという工事が繰り返されるようになった。

昭和五十六年には、品川区の日中親善教育交流が始まり、第三日野小学校とハルビン市継紅小学校との間に兄弟校の提携が行われた。以来現在に至るまで、作品や書簡の交換・代表団の訪問などを通して、交流の成果を積み上げてきている。



昭和五十七年は、開校六十周年の年であった。三日野の伝統となっている「三日野音頭」や「子どもまつり」が記念事業の一環として行われた。

昭和四十七年校舎全景

あゆみ七

昭和四十年（一九六五）

十一月 文部省主催教育課程研究発表会

昭和四十一年（一九六六）

四月 第八代校長 高田数間氏就任

昭和四十三年（一九六八）

十一月 区研究協力校本発表（算数）

昭和四十四年（一九六九）

四月 第九代校長 宇佐美英雄氏就任

昭和四十七年（一九七二）

五月 開校五十周年記念式典

昭和四十八年（一九七三）

四月 第十代校長 中村喜八郎氏就任

昭和四十九年（一九七四）

四月 都立立川養護学校品川分校本校にて（なかよし学級）開校 57年3月まで

昭和五十一年（一九七六）

四月 第十一代校長 並木忠雄氏就任

昭和五十二年（一九七七）

六月 組立て式プール完成

十一月 区研究協力中心校「体育」発表

昭和五十四年（一九七九）

四月 第十二代校長 多田羅 弘氏就任

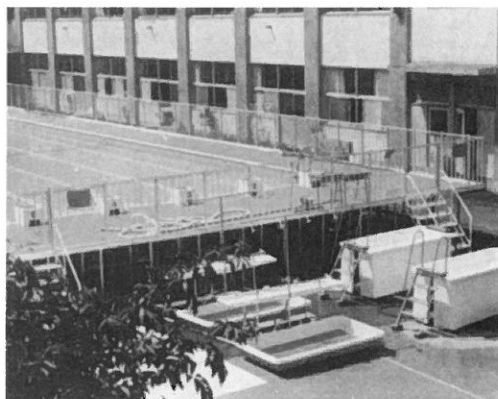
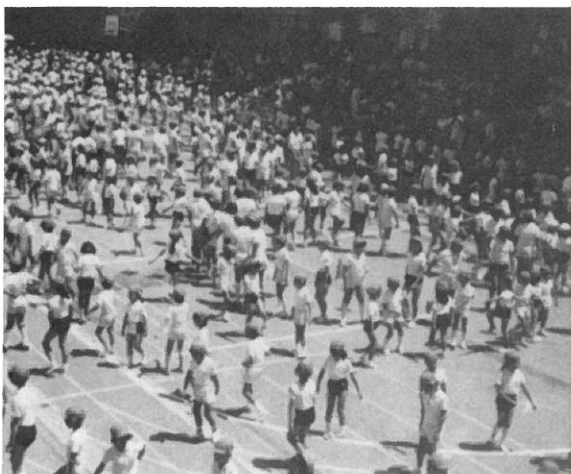
十一月 学校視聴覚教育全国大会開催

昭和五十六年（一九八一）

四月 日中親善教育交流として、ハルビン市継紅小学校と兄弟校になる。

昭和五十七年（一九八二）

十一月 開校六十周年記念式典挙行



組み立てプール（昭和52）

三日野音頭

三日野音頭

作詞 児
作曲 児

童 童

三日野音頭の思い出

橋 本 京 子

（昭和四七～五八年在職）

盆踊りに運動会にと歌い継がれ踊り継がれている「三日野音頭」は、開校六十周年を記念して作られたものです。

みんなで歌って踊れるものという願いのもとに、歌詞も作曲も六年生たちから公募し、当時の音楽専科、竹下芳江先生が手を入れて、三日野の春夏秋冬を折り込んだ明るい歌が生まれたのは、運動会の二週間位前でした。この曲に、私が中心になって振りつけをし、運動会に初めて披露した時のときめきが、今でも甦ってくるような気がします。

一年生が歩く姿をイメージした踏み出し。自分の心を常に鏡のようにみつめ、いい心でいようねと手鏡を作る動作。未来へ向かってしゃがんで伸びるしぐさ。一つ一つに心をこめて振りつけました。

地域の皆様のご協力もすばらしいものでした。太鼓の練習のために、紫色のふくさに包んだバチで子供たちに心ゆくまで叩かせてくださったあの音。その心意気が伝統になって今に伝わり、踊り継がれているのでしょうか。さあ、みんな、仲よく集まって一つの輪を作ろう。そう呼びかけて踊った「三日野音頭」が、「輪は和に通ず」の言葉を裏づけるように輪（和）を広げてほしいと願っている私です。

秋が来ました 第三日野に
学校をとりまく 池田山（それ！）
さえずる鳥の 心地好さ
良く考え やりぬく子供
シャンシャン シャンシャンの三日野だ

冬が来ました 第三日野に
目黒 五反田 あのあたり（それ！）
積もる雪さえ 踏み締めて
世界の空に 伸びゆく子供
シャンシャン シャンシャンの三日野だ

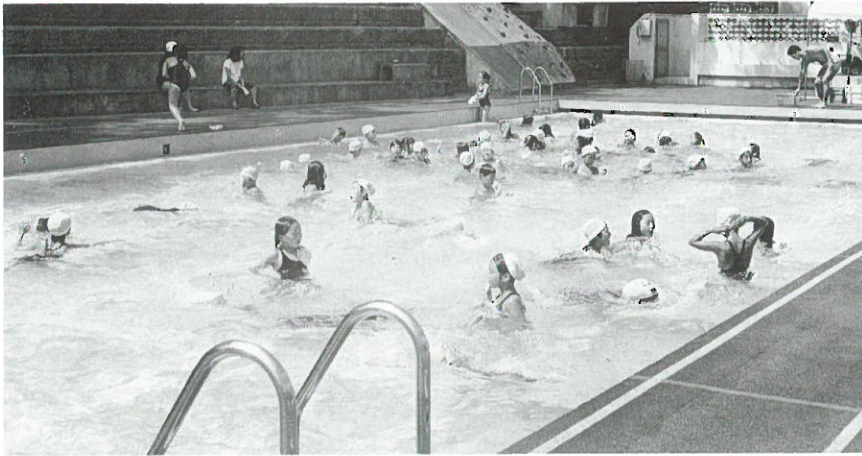
昭和から平成へ

最近の
十年間

六十周年以降の十年間に、学校施設の充実が図られ次々と大きな工事が行われた。昭和五十九年（一九八四）には第二運動場が落成し、狭い校庭の悩みが緩和された。昭和六十二年度には体育館の改築が行われ、崖下の陽のあたらない体育館から光のよく入る明るい体育館に生まれ変わった。平成元年（一九八九）一月には区の連合作品展の大崎ブロック会場としても使われた。昭和六十三年度には組み立て式プールに代わって校庭に埋め込み式プールを建設、続いて校庭舗装工事を行った。硬質ゴムのチップを敷いて弾力をもたせるといふ新しい工夫が施された。

長かった昭和時代は六十四年で終わり（正月のわずか七日間）平成へと変わった。近年は帰国子女や、外国へ転校する子供も目立つようになり、国際社会の中の日本ということを日常的に実感するようになってきた。

平成四年度からは新学習指導要領に基づいた教育が実施されることになり、個性を伸ばす教育、生涯を通じて学ぶ意欲を育てる教育が強調されている。国際理解教育の研究（昭和六十年～六十二年）主体的に学ぶ子供の育成・体育の研究（平成元年～二年）は、これから新しい教育課題解決に向けての努力の記録であった。



新しいプール

日中教育交流の面では、平成二年には中国の児童代表が本校を訪れ、平成三年には本校から二名の代表児童が中国を訪問し交流の歴史に新しい一ページを書き加えた。

あゆみ八

昭和五十九年（一九八四）

四月 十三代校長 国井隆夫氏就任

第二運動場落成式

昭和六十二年（一九八七）

一月 区研究学校発表（国際理解）

四月 十四代校長 大野幸男氏就任

三月 体育館落成式

昭和六十三年（一九八八）

八月 プール建設工事（埋込式）開始

三月 プール（埋込式）完成

校庭舗装（サーフアス舗装）完成

平成二年（一九九〇）

十一月 区研究校及び小体研推薦校発表

（体育）

平成三年（一九九一）

四月 十五代校長 大内敏光氏就任

十月 中国ハルビン教育視察団 初めての児童視察

（五年 石原美和子 六年 佐藤 慶）

平成四年（一九九二）

十月 開校七十周年記念式典挙行



体育の研究授業



新体育館落成



待望の第二校庭



一輪車で遊ぶ

第三日野の学習環境

室 健

(平成二年卒業)

僕達が六年生のとき、第三日野は体育の研究校になり、跳び箱などの器械運動に取り組んだ。僕は体育はあまり好きではなかったが頭はね跳びの練習に励んだ。クラスの友達全員が自分に合った高さの跳び箱で練習し、最後の一人が跳べるようになったときには、皆で手を取り合って大喜びしたものだ。

この研究会の行われた新体育館には電動のバスケットゴールがある。落成式の後、舞台の前の天井から下がっているバスケットゴールを見たときには、早くバスケットがしたいという気持ちでいっぱいだった。今までのゴールは舞台の視界をさえぎるため、元の体育館では横の幅でしかバスケットボールができなかったのが、縦の幅で広くのびのびとプレイできるようになったのだ。

新校庭はゴムの地面で、転んでもケガをしにくいので、僕は休み時間になると鉄馬や一輪車などの遊具でチャイムが鳴るぎりぎりまで遊んでいた。

こういった施設の充実も素晴らしいが、自然環境も失われてはいない。桜の木は毎年入学式の頃に美しい花を咲かせるし、雑木は涼しい環境を作り出す。これからも第三日野が発展していくことを祈る。

歴代校長



二代校長
市原文治先生
昭和2.3.31～昭和12.3.30



初代校長
吉沢光義先生
大正11.3.2～昭和2.3.30



五代校長
則内一郎先生
昭和30.10.1～昭和33.3.31



四代校長
中野藤太先生
昭和27.10.1～昭和30.9.30



三代校長
橋本信栄先生
昭和12.3.31～昭和27.9.30



八代校長
高田数間先生
昭和41.4.1～昭和44.3.31



七代校長
増田喜恵蔵先生
昭和38.4.1～昭和41.3.31



六代校長
赤池徳平先生
昭和33.4.1～昭和38.3.31



十一代校長
並木忠雄先生
昭和51.4.1～昭和54.3.31



十代校長
中村喜八郎先生
昭和48.4.1～昭和51.3.31



九代校長
宇佐美英雄先生
昭和44.4.1～昭和48.3.31



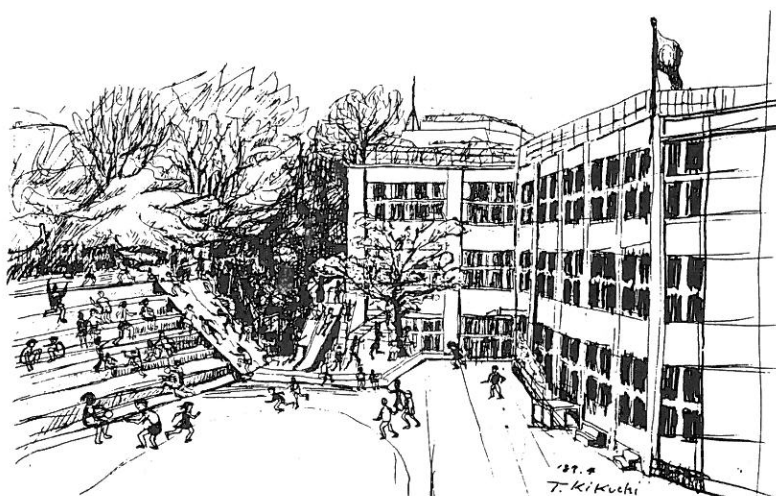
十四代校長
大野幸男先生
昭和62.4.1～平成3.3.31



十三代校長
國井隆夫先生
昭和59.4.1～昭和62.3.31



十二代校長
多田羅弘先生
昭和54.4.1～昭和59.3.31

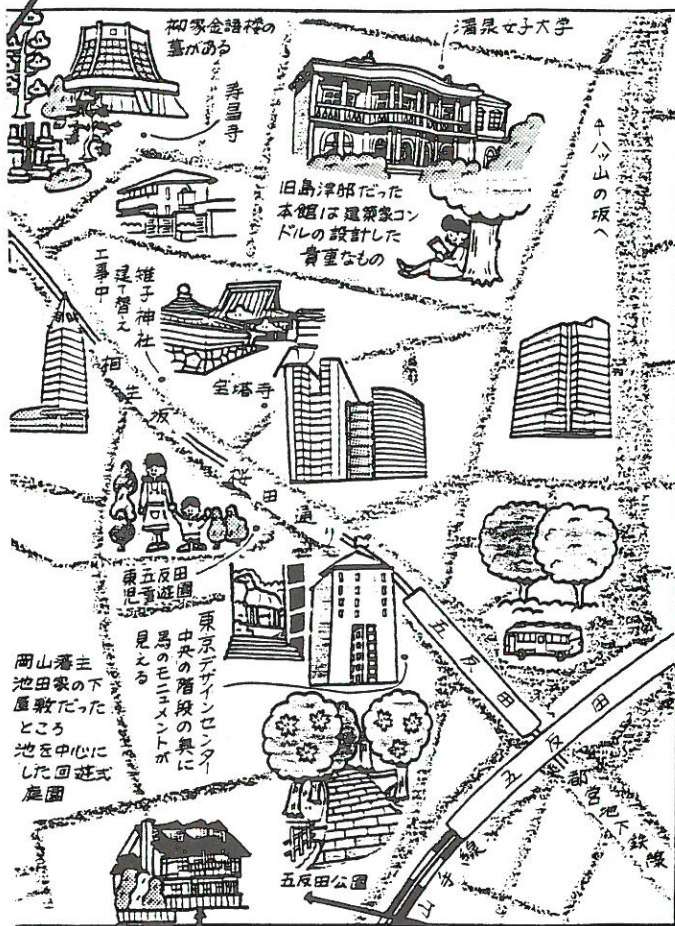




般若苑

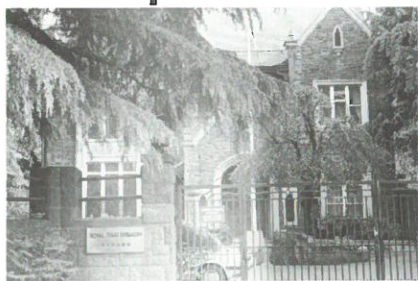


地域に見られる 史跡



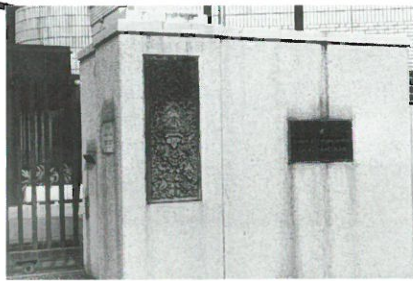
史跡マップ

昔、五反田の田圃があったことから「五反田」と名付けられたこの地は新旧両方の趣を味わえる所である。首都高速道路沿道や桜田通り沿道には新しいビルやマンション等が建ち並び個性的なスタイルを競っている。学校の周辺には歴史にかかわる史跡名勝などが数多く残っている。中でも、学校の目の前には池田山公園は岡山藩主池田家の下屋敷があった所で、中は回遊式の日本庭園になっている。また、学校の北側には寺町がある。ここには九つの寺が密集しているがどの寺も芝増上寺の子院としてこの地に建てられたものである。図は「しながわ」平成四年五月二十一日号を使用させていただきました。



タイ大使館

大使館で働く人の子供達が三日野に通って来ている。



インドネシア大使館



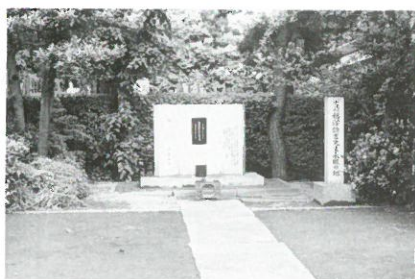
自然教育園

5・6年生になるとこを訪れて
5月に写生会を行う。



畠山記念館

茶道具の名品で知られる。
畠山記念館と般若苑は庭
続きになっていて、どち
らからでも庭園美を味わ
える。



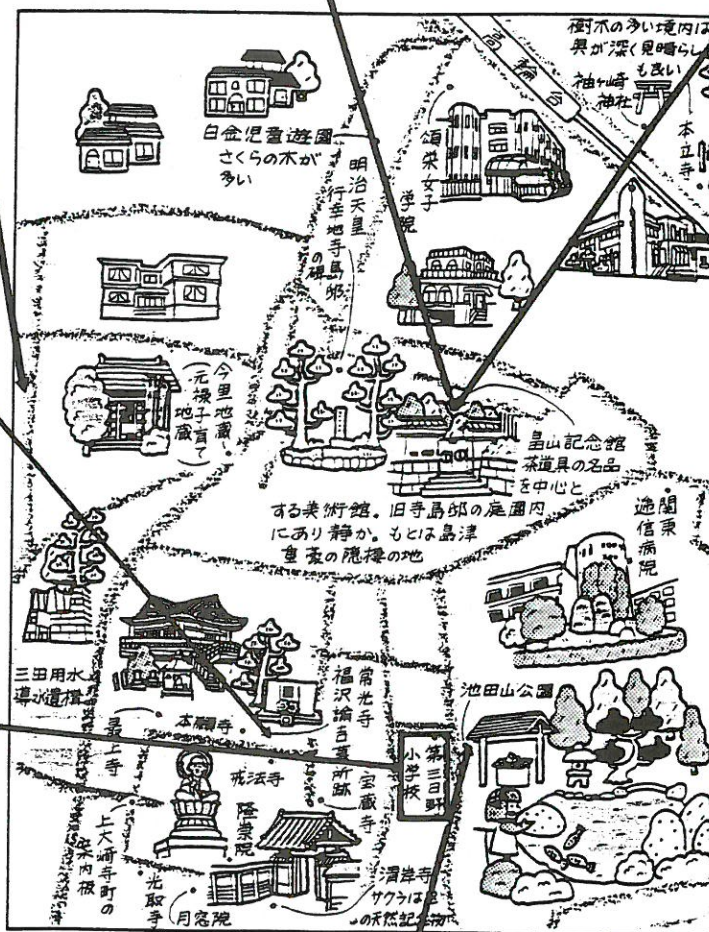
福沢諭吉墓所

永眠の地にふさわしい閑静なところにある。
寺町の1つ常光寺内にある。



第三日野小学校

大正11年に創立して以来、数々の災害に
見舞われながらも今年、70回目の誕生日
を迎えた。校庭は「鰻の寝床」と言われ
細長い形をしているが新しい体育館、緑
の校庭、埋め込み式のプール……と自慢
も多い。



池田山公園

四季折々の草花を観賞でき、
理科学習には大変役立って
いる。

広報「三日野」第115号より)

校歌の作詞、作曲者

西条 八十さん
(1892～1970)

大正時代の象徴主義の代表的詩人でもあり、童謡の作詞家としても有名。歌をたれたカネリアの作詞者。

しもづ かいり
下統 崑一さん
(1898～1962)

教員として、またで教えるかたわら唱歌、校歌なども手がける。上大崎在住の、昭和27年、三日野校歌作曲。[さの葉さらさら]の「はばたき」の作曲者でもある。二人は友人関係で、氏の声かけで校歌が作られた。

ピアノ

—もう今は残ってはいない—

大正15年、当時萩原郡に属していた学校の中では、初めてピアノを購入して、音楽教育に力を入れていた。

※昭和30年代、合唱団活動が盛んで全国大会で優勝という経験も多い。

正門

昔は電灯のともる門柱だった。

今は卒業生のレリーフが納められているが、その当時の姿が残されている。

第三日野小の名前のいわれ

大正時代、学校附近は日野の庄(別名、大崎たんぼ)といわれていた。その日野の名をとって名付けられたといわれている。

児童数の移り変わり

平成4.9.1現在

年度	児童数	学級数	年度	児童数	学級数
大11	946	17	38	683	16
12	981	18	39	718	18
13	989	19	40	695	18
14	873	18	41	729	19
15	949	18	42	719	19
昭2	859	18	43	757	20
3	844	18	44	818	20
4	892	18	45	763	19
5	897	18	46	774	19
6	951	18	47	764	19
7	戦災により資料 焼失		48	808	19
↓			49	772	19
20			50	751	19
21	320	12	51	751	18
22	561	12	52	701	18
23	609	13	53	740	19
24	704	14	54	781	20
25	833	16	55	777	19
26	908	18	56	804	20
27	912	18	57	789	20
28	933	18	58	782	20
29	977	18	59	753	20
30	1027	19	60	707	19
31	1080	21	61	686	18
32	1045	20	62	656	19
33	1082	21	63	597	17
34	1045	21	平元	570	17
35	926	20	2	564	18
36	844	19	3	540	17
37	728	16	4	483	15

70周年特集

三日野歴史さがし

(PTA)

学校の中に今も残る創立当時の思い出を訪ねてみませんか…。

学校のまわりは……

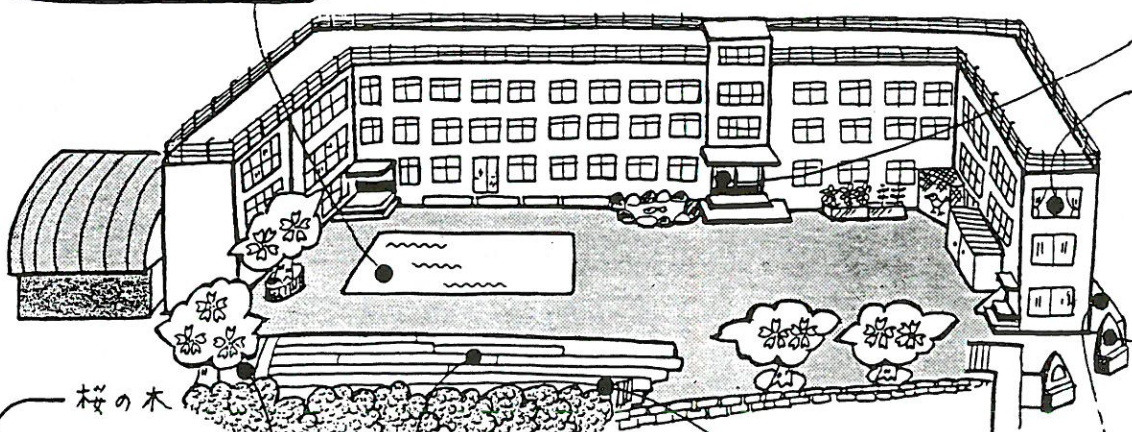
創立当時、池田候の下屋敷といわれ、雑木林に囲まれていた。その雑木林にはきつねも住んでいたという。

- ・現在の逸信病院付近 昼でもきみの悪いような深い林だった。
- ・池田山 雑木林。
- ・大崎附近 田んぼが一面に広がり水も豊富で滝や水車なども見られた。

※校庭は田んぼを埋め立てたものだったので雨が降るとぬかるみになって、大変だったそうだ。

プール

大正15年7月荏原郡でただ一つのプールが本校に設置された。(現在の校門右側に小規模のもの)昭和10年には拡張され、低学年用、高学年用の二つとなり、区の水泳大会はいつも本校で開かれた。



桜の木

七十年の歴史を知っている桜の木。たくさんの子供達とともに生き続けている。

すべり台

本校開校当時から、いつも静かに子供達を見守り続けてくれた「すべり台」。空襲で校舎が全焼しても残ってくれた大事な宝物。今も校庭の片隅でみんなを見守っている。

石の観覧席

プールが作られた時にかけと利用して作られた。昔は区の水泳大会で使われ今も当時の姿そのままに、運動会ではなくてはならない存在となっている。座っていると昔の歓声が聞えてくるかも……。

皇太子さま(現天皇陛下)誕生記念の石柱

石の観覧席を登りつめると見えてくる石柱。皇太子さま誕生を国民でお祝いしたことがよくわかる。(昭和10年に作られる)

長かった6年間。いろいろな思い出
ができました。淋しいけどお別れです。



卒業式

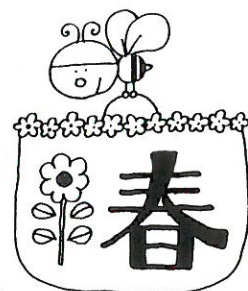
3月

ぼくの先生どの人かな？
やさしい先生だといいな。



入学式

4月



お母さんに作ってもらったお弁当。
とってもおいしかったよ。



遠足

5月
6月

子供祭り

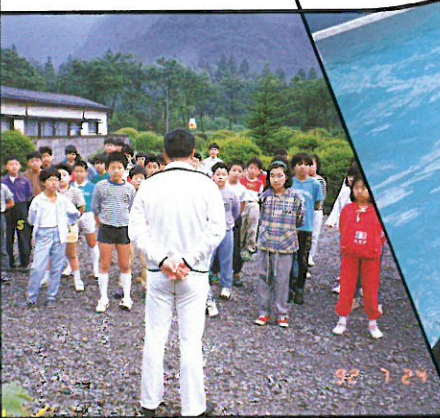


お兄さんやお姉さん。
とっても楽しいんだ。毎日のおかげ。
毎日子供祭りだよ。

の四季

8月

林間学校



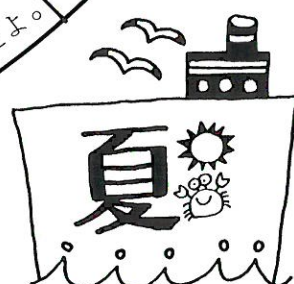
7月

プール



夏になると校庭の下から出てくる
んだよ。いかだを作って遊んだよ。

友達と一緒に2泊3日。
忘れられない思い出の1つだよ。





大きな機械がたくさんあるんだ。
みんな機械が作っているんだね。

お世話になった 6 年生ともお別れ。
卒業しても元気で がんばって！



6 年生を
送る会

社会科見学

1 月

2 月

三日野

12 月

11 月

10 月

9 月

音楽会

運動会

やまぐち
こども
大会
学芸会



外は
寒い
けど
おもしろい
のね。
体の中は
ホッカホカ。

練習は大変だったけど本番は胸をはって
堂々とできてきもち良かったナ。



一つの曲を何度も何度も練習し
大きな拍手をもらいました。



皆で力を合わせればきっと
勝てるはず・・・なんだけど。



三日野の一日



朝会 毎週月曜日の朝は校長先生の楽しい話が聞けます。

登校 8:15「おはよう」の声とともに三日野の1が始まります。



給食 今日は何かな？
落とさないように。こぼさないように。

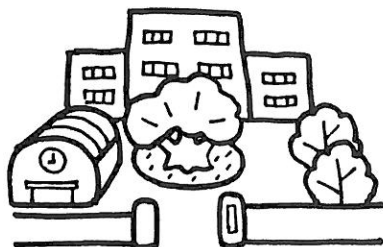
昼休み 細長い校庭で皆仲良く、上手に遊びます。



清掃 高学年になると特別教室の分担があります。皆で使う部屋もきれいにします。



音楽 先生の話をよく聞いて、今日はピアノの勉強です。



20分休み

一輪車のとりっこが始まります。「どう？
うまくなったでしょ」



理科学習 音のあてっこ「さあ、これ何の音だ？」

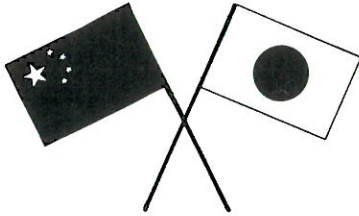


下校 3:45 1日の学校生活の終りです。「また明日、
さようなら」

クラブ活動 月曜日の6校時、好きな者同志それぞれの
場所で活動します。



日中教育交流



第三日野小学校が日中親善教育交流の兄弟校としてハルビン市継紅小学校との間に交わりを開始することになったのは昭和五十六年（一九八一）八月のことである。児童の作品の交換、視察団の訪問などを通しての交流が始まった。

昭和五十八年十月には、ハルビン市より馮光武先生、王興泰先生が来校。両先生を囲んで家庭教育学級がもたれ、日中の教育事情について意見の交換が行われた。

翌、昭和五十九年六月には本校の近藤雅史教頭が日中交流品川区使節団の一員としてハルビン市を訪問、第三日野小児童の絵や書写作品、全児童の友好カードを継紅小学校に贈り親善を深めた。

以後一年おきに相互に教育視察団を派遣し、教育交流を積み重ねてきている。

平成二年（一九九〇）六月にはハルビン市の児童・生徒教育使節五名が来校し、全校児童の前で絵や書をかき上げ、第三日野小に贈った。また、六年生の教室を訪れ、書写の学習を共にし交流を深めた。

平成三年十月には第三日野小の児童がはじめて継紅小を訪問、子供の目を通して生き生きと中国の学校の様子を伝えてくれた。

日中教育交流のあゆみ

昭和五十六年（一九八一）

四月 日中親善教育交流としてハルビン市継紅小学校と兄弟校となる。

（当面は文通や作品の交換等から友好を深め、親善を図る。）

昭和五十八年（一九八三）

十月 馮光武先生、王興泰先生来日・視察
昭和五十九年（一九八四）

六月 近藤雅史教頭、品川区中国視察団員として訪中

十一月 中国共産党訪日団学校参観
昭和六十年（一九八五）

十月 中国教育視察団 学校参観
王 俊英 継紅小副校長以下四名

昭和六十一年（一九八六）

六月 平田昭子教諭 訪中
昭和六十二年（一九八七）

七月 中国ハルビン少年宮団員一行来校
十月 中国ハルビン教育視察団来校

沈 果明 ハルビン市副市長以下四名
昭和六十三年（一九八八）

九月 大野幸男校長 訪中
平成元年（一九八九）

五月 中国教育視察団一行五名来校
九月 ハルビン市訪問団 宮 本言ハルビン市長以下二名来校

平成二年（一九九〇）

六月 ハルビン市教育視察団来校
王 朝晋 ハルビン市教育委員会副主

ハルビン市

親善交流に一步前進か

日・中民間レベルに意欲的

区内の小学校などを訪問し、市長と尚玉金副秘書長、鄭虎鎮・市外事務室担当の3名。今回来日したのは、宮本官



昨午6月に高橋区長がハルビン市を訪問した。市長と尚玉金副秘書長、鄭虎鎮・市外事務室担当の3名。今回来日したのは、宮本官



6月27日、中国ハルビン市の児童・生徒教育使節団来校する。

—児童の交流—



歴史館、箱根方面を視察し、二十七日には両区市長の会談。午後六時から、「ゆうほう」と「でさな」のパーティーを国際民間友好協会主催で行い、二十八日帰日した。

稚内と同じ位の緯度にあるハルビンは、予想以上の寒さ、それと国土の大きさを。気温二度のホテルには暖房が入っていないし、シャワーからは水が出てきたりして本当に寒さを感じました。それだけに心暖まる歓迎を受けた時は嬉しかったです。ハルビンの市街は人口二百万の都市だけあって、高い建物や自動車があふれています。でも馬車が野営を喜んで通ったり、ニュースで見た昔の銀座通りの様でした。僕達が訪問した学校は、ハルビンでも特に優秀だと聞いていましたが、その通りで暗算の話が出たので挑戦したのですが、余りに速いので、最初から諦めてしまいました。料理は気候が寒いせいか、かなり油っこかったのですが、こつこつの足やカニ等向でもバクバク食べたとで喜ばれました。今回僕が中国に行ってきたのは、この食文化だけだったかもしません。

任を団長に大人三名・児童五名が初めて訪日
安尾久子教頭 中国教育視察団訪中
平成三年 (一九九一)
九月 ハルビン市教育視察団来校
武 敏ハルビン市教育委員会副主任を団長以下四名来校
十月 児童代表(五年石原美和子・六年佐藤慶)初めて中国訪問
平成四年 (一九九二)
六月 大内敏光校長 訪中

六年一組 佐藤 慶
五年三組 石原 美和子

未来へ向かって

三日野の子供たち

○大好きなもの

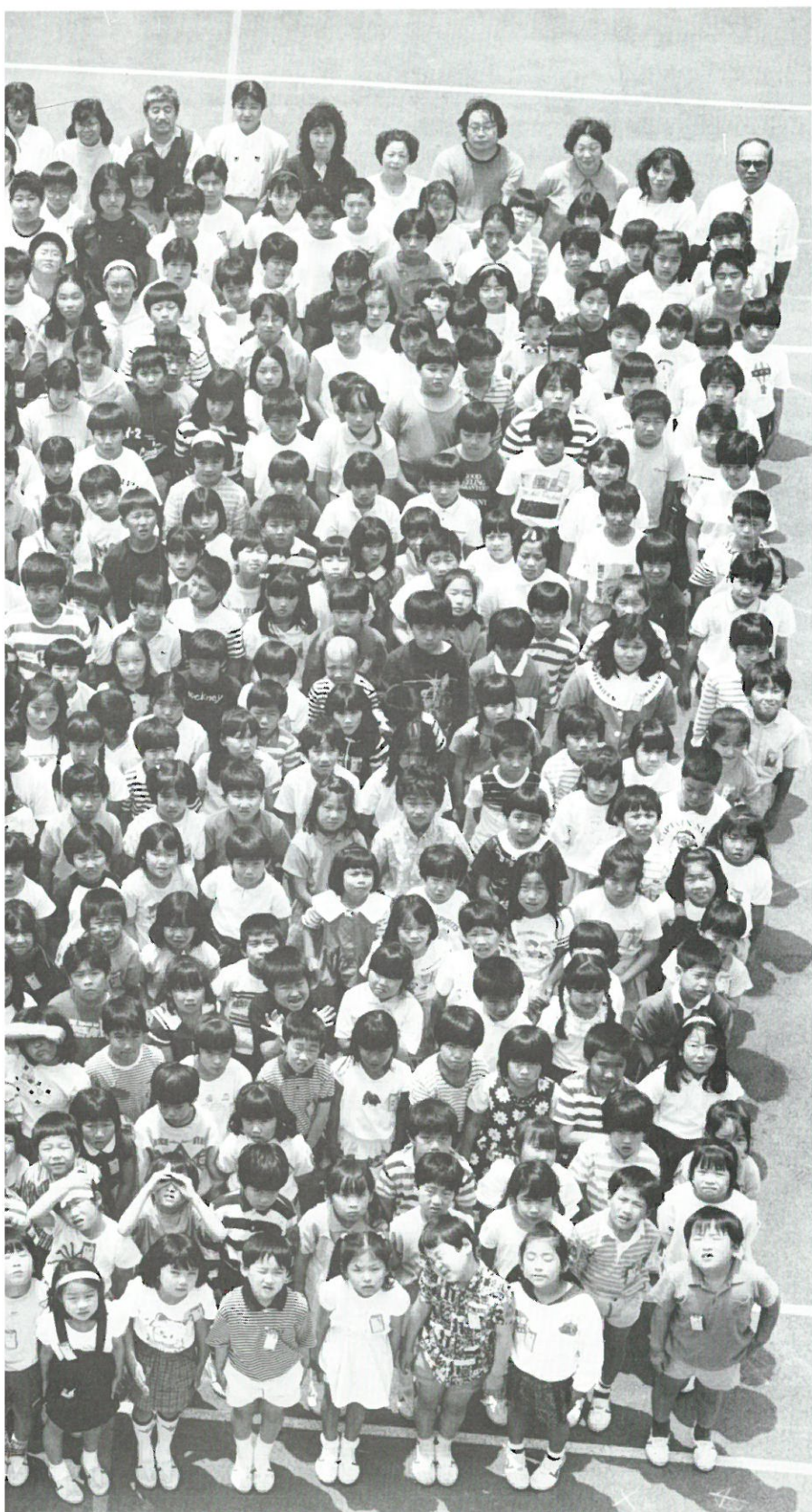
○してみたいこと

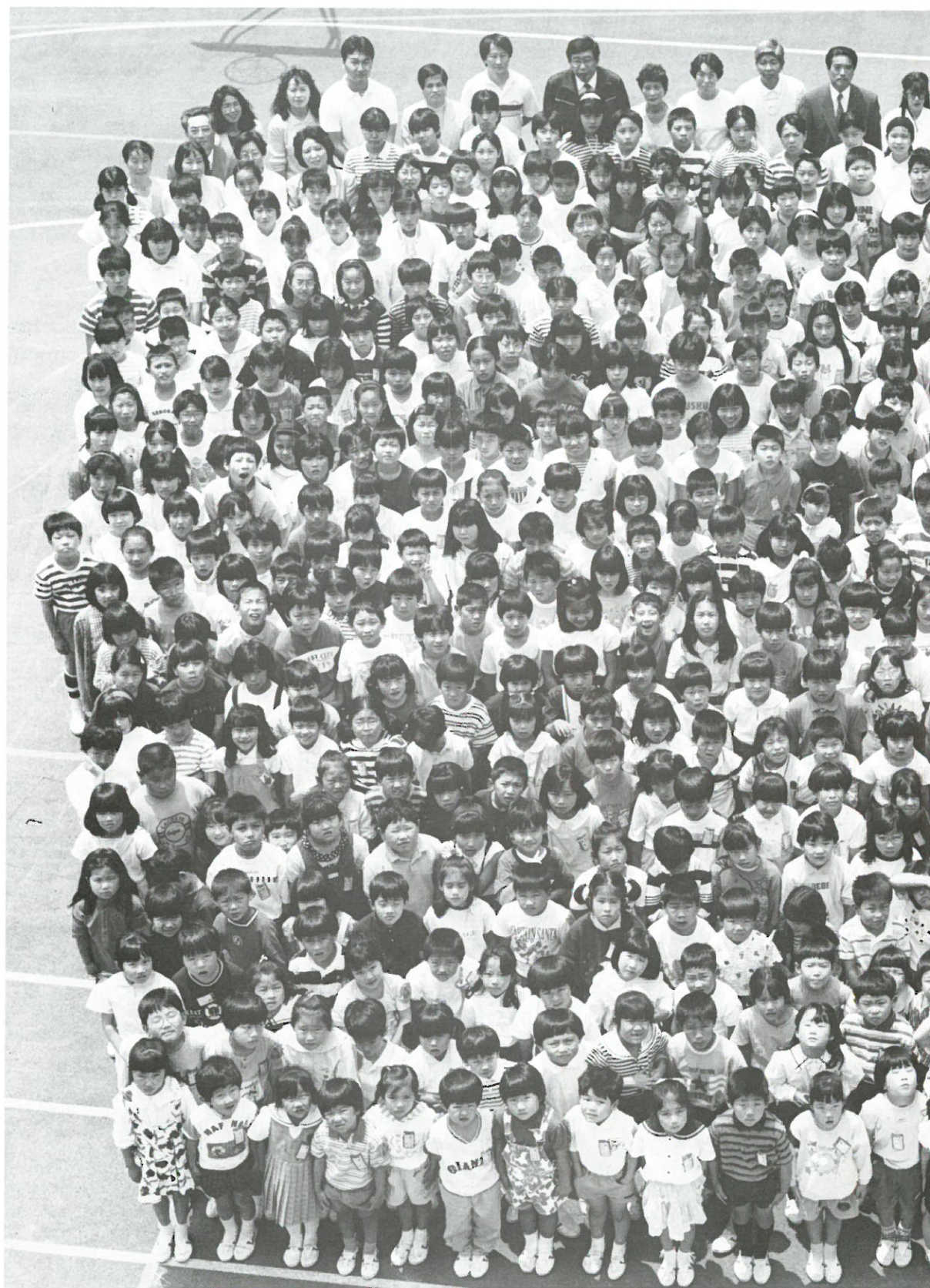
○ぼくの、私の自慢

○未来へ向かって

○将来の夢

○ぼくの夢、私の夢





70周年記念事業等の記録

ここに記念事業等の概要を記し、以後の歩みへのステップとしたい。

一、周年行事に向けての三つの視点

- (1) 過去をふり返る
- (2) 現在を見つめる
- (3) 将来を展望する

二、三つの視点による三つのねらい

- (1) 70周年を節目に学校の歴史をふり返り、学校や地域に対する理解を深め、感謝の念や愛校心を育てる。
- (2) 児童や全教職員、PTA等関係者一同、心を一つにして周年を祝い、結びつきや信頼関係を深める。
- (3) 節目に立って将来を展望し、来るべき21世紀(80周年)へ向け、希望をもって意欲的に前進しようとする。

三、三つの方針

- (1) 平成四年度は一年間にわたって70周年として対応する。
— 日常活動としての周年行事 —
- (2) 可能な限り、すべての学校行事に「70周年記念」をかぶせる。
— 子どもを生かした活動としての周年行事 —
- (3) 70周年の年として、特色ある教育課程を組む。
— 三日野の特色ある活動としての学校行事 —

四、組織と取り組み

70周年記念行事委員会

校長・教頭・教務主任・各部長で組織し、各部及び祝う会との連絡・調整・推進を図る。

式典部

- 記念式(全児童参加)、記念式典(5・6年のみ)の構想。
- 児童から歌詞を募集、三日野讃歌「笑顔がいっぱい」を作る。
- 児童への記念品準備(航空写真撮影等)

村島・萩原・大久保・窪寺・浦上・河村

記念誌部

- 70周年記念誌の資料の収集と作成。

— 学校のあゆみ、学校の今、未来へ向かっての三部構成

佐藤・椎谷・沖野・谷山・乙川・河上・小林

事業部

- 学校や地域の歴史を振り返ることのできる展示室を作る。
 - 児童会を中心に「70周年記念子どもまつり」の計画
- 今井・佐山・奥山・吉本・太田・花房

70周年記念事業の歩み

○ 70周年記念行事委員会設立	平成4・4・17
— 式典部・記念誌部・事業部 —	
○ 祝う会組織編成	4・4・
○ 記念航空写真撮影	4・5・23
○ 記念誌編集作成	4・9・27
○ 記念大運動会	4・10・31
○ 三日野子どもまつり	4・10・17
○ 開校70周年記念式典・祝賀会	4・11・1
○ 同窓会総会	5・1・29
○ 記念展覧会	5・1・30

参考文献・資料

品川区史・郷土史に関する資料

品川区史 通史編上巻・下巻 (昭49)

品川の口碑と伝説 品川区教育委員会 (昭33)

五反田今昔物語 山口直博・著 (昭52)

写真集 五反田の今昔 新日本証券広報室 (昭52)

戦災焼失区域表示帝都近傍図 (昭21)

品川の学童集団疎開資料集 品川区教育委員会 (昭63)

学校沿革史に関する資料

第三日野小学校沿革史

創立三十周年記念誌 (昭和二十七年)

創立四十周年記念誌 (昭和三十七年)

開校六十周年記念誌 (昭和五十七年)

第三日野尋常小学校「文集」 (昭和四年に第一号が発行され、

以後、毎年発行されていた。学校に現存するものは第一、四、五、八、九、十四、十七、十八号である。児童作文、学校の沿革が記録されている。

P T A 広報誌「三日野」

平成四年七月現在で第百十五号が発行されている。

P T A 広報誌「三日野」五十周年記念特集号 (昭和四十七年)

創立六十五周年「三日野」百号記念号 (昭和六十二年)

文献・資料から

第三日野小学校の歩みをまとめるにあたって多くの文献・資料から学ばせて頂いたが、紙面の都合上載せられなかったものがいくつもあ。埋もれては惜しい記事のいくつかを紹介したい。

○対談 こんにちは初代校長先生 (「三日野」第七十号 昭52)

・その当時の学校の設備なんかはどんな様子だったんでしょうか。

・「先生の中に音楽の好きな先生がいて、楽器やなんか全部買わなければならぬ。ピアノが欲しいというそれはよからう。私がみんな見積ったんですよ。町は非常に裕福だったのです。それに、新設校でもっているいろいろな経費がとってあってそういう希望で買った。ピアノなんか小学校におくものではない、オルガンの大きなのにしろと言われたけどね、注文してしまったのでそのまま。」

○座談会 三十年のあゆみ (開校三十周年記念誌 昭27)

「プールは昭和七年にこれ(現在のもの)を作るので予算を取ろうとしたが、第三にはもうあるから(七米・二十二米)といっている。なかなか出さないのを何とかかんと云ってやっと出させて今の七米・二十五米にした。観覧席を作ると云ったらおこられてしまったので色々考えたあげく階段式運動場としてやっと通してもらったのです。」

○校歌制定にかかわるエピソード

当時、一流の大家のところへ作詞を依頼にいくことになった三日野の三人の先生は、紹介状を携えているとはいえ緊張したという。

西条先生に面会したとき三日野の様子を話し、おわりに作詞料を値切ってしまった、今考えてもよく言ったものだ、冷や汗ものであると、依頼に行った三人の一人、秋岡先生は、笑って語っていた。

……校歌の詩が出来上がり、下総先生のところへ作曲のお願いに行ったとき、しばらく詩を眺めていた下総先生は、「これは作曲するのに難しい詩だ」と腕組みをして唸ったという。

編集後記

過去をふり返り、現在を見つめ、将来を展望して——これが七十周年記念誌の基本テーマでした。

第三日野小学校は昭和二十年の五月に空襲にあい、校舎全焼という不幸に見舞われました。そのため開校以来の貴重な資料を焼失してしまいました。

戦後の周年記念事業にあたっては資料収集のため多くの苦勞が伴ったことと思います。今回の七十周年記念誌では先輩たちが苦心して集め、まとめられた資料から十分に学ばせて頂きつつ、紙面の許す範囲でできるだけ詳しく正確な三日野の歩みを記録しておこうと心がけました。

また、七十周年の節目にあたって現在の学校の様子や未来を見つめる子供たちの願いを記録にとどめようと意図しました。

この記念誌を通して、第三日野小学校にかかわってこられた皆様や第三日野に学ぶ子供たちが過去を知り、現在を見つめ、新しい時代を考える資料として役立つよう願っています。

記念誌の作成にあたって貴重な回想記を寄せて下さった方々、資料をお貸し下さった方々、お力添えを頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

編集委員一同

開校七十周年記念誌

三日野

平成四年十月三十一日 発行

編集 七十周年記念誌

編集委員 会

発行所 品川区立第三日野小学校

品川区上大崎一丁目十九番
〇三―三四四一―六四五二

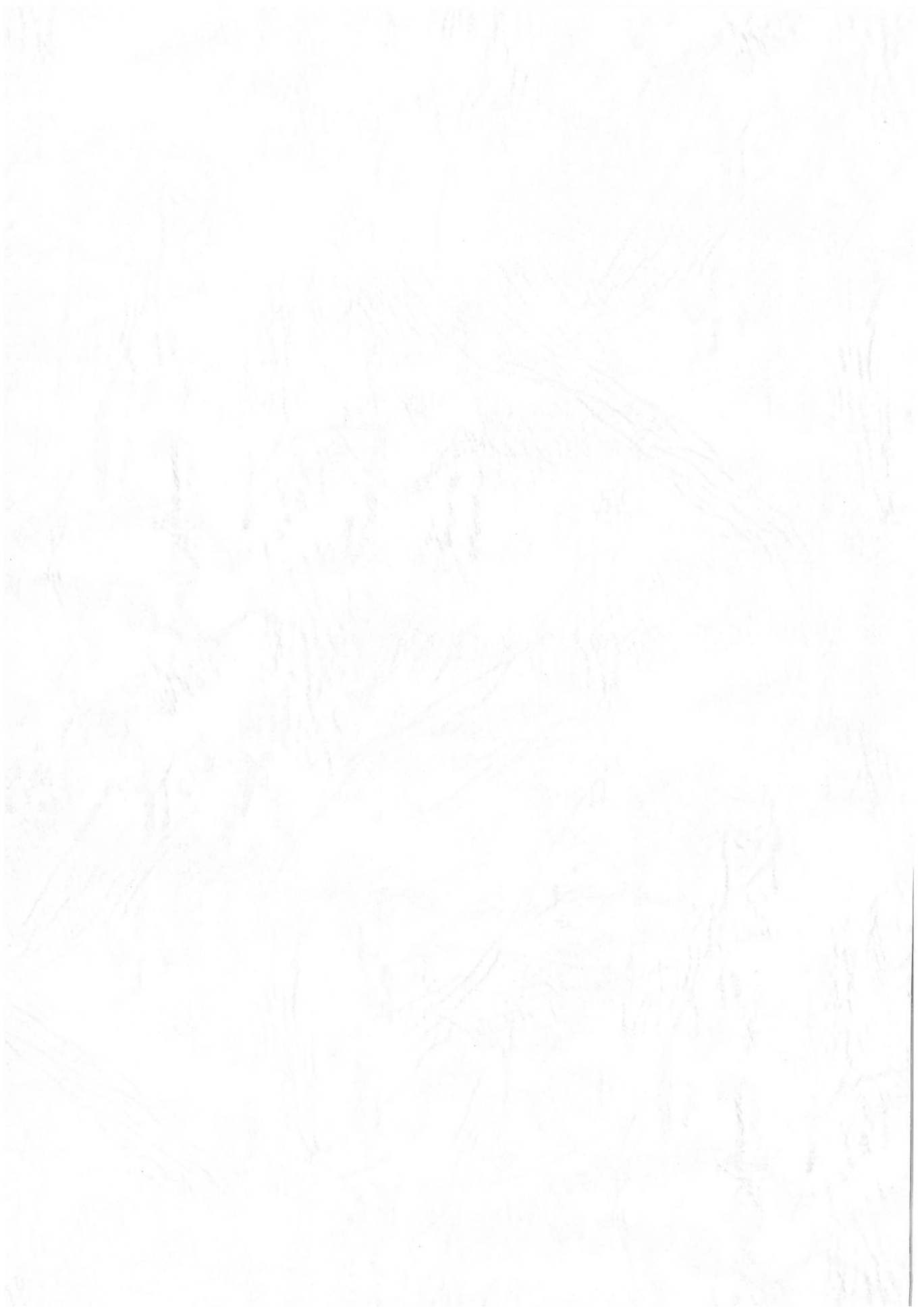
発行者 大内敏光

印刷所 株式会社 三誠社

文京区本郷二丁目二十二番四
〇三―三八二一―〇二四一

表紙 太田三郎
表紙題字

P T A 広報誌三日野より







70

